

## 第1回検討会における主な御意見と対処方針(案)

御意見	委員	対応方針(案)
熱中症警戒アラートが発令されたときに、適切に対応できなかった事例についても、可能な範囲でヒアリング等の調査を行う。	戸田委員	熱中症警戒アラートが発令されたときに、適切に対応できなかった事例について、教育委員会や学校へのヒアリング項目に加える。ヒアリングを実施した教育委員会では適切に対応できなかった事例はなかったが、熱中症警戒アラートへの対応については、資料2-1にてまとめた。
暑さ指数(WBGT)計の配備状況について把握する必要がある。	渡辺委員	教育委員会に対し暑さ指数(WBGT)計の配備状況についてヒアリングで確認。学校によっては所持しているものにバラつきがあったため、手引き3.3.2に暑さ指数(WBGT)計について記載した。
暑さ指数(WBGT)計の規格によって計測値にばらつきがあるのではないか、どの機械を使うとよいか記載してほしい。	本庄委員 渡辺委員	教育委員会に対し暑さ指数(WBGT)計の配備状況についてヒアリングで確認。学校によっては所持しているものにバラつきがあったため、手引き3.3.2に暑さ指数(WBGT)計について記載した。
JIS8504を労働衛生の現場で推奨している。少なくとも黒球温度計のついてないものはWBGTの正確な測定には耐え得ない。極端な話ではあるが、何も測らないよりは安い機器で測ったほうがいい。仮にWBGT計がなくても気温はしっかり測ったほうがいい。	登内委員	手引き3.3.2に暑さ指数計の選び方を記載。JIS規格に適合した機器の選定を推奨した。また、WBGTがない場合には、温度と湿度でとか、それを持っていない場合の対応についても記載した。
体重計を活用して活動前後に体重を測るなどやっている部活がある。体重を前後で測り、脱水の状況を把握するという意味では、非常に役に立つ方法である。	本庄委員 三宅委員	運動前後の体重減が2%以内におさまるように水分補給を行うことを手引き2.4.1に記載した。
神奈川県立で作成したガイドラインでは、その暑さ指数と教員の	本庄委員	暑さ指数に応じた教職員の判断や行動の目安の例として手引き

御意見	委員	対応方針(案)
判断の行動の目安があり、管理職は何をするみたいなことが記載されていて、学校現場としてはこういった例があると活動しやすい。		5.4 に記載した。
熱中症警戒アラートが発令したときに、教育委員会、学校など誰がいつ何をどうするのか、そして具体的な熱中症予防の行動を緊急、臨時にどうやっていくのかというフローが必要ではないか。	戸田委員	熱中症警戒アラート発表時の対応例として、手引き 5.5 に対応フロー図を記載した。
どういったものを準備しておく、例えば冷蔵庫、その中に入れる保冷剤の数、保水液の数、酸素飽和度も準備するのは、ここには載せるのでしょうか。	三宅委員	準備する物資やその量は学校の規模等によって変化するため、学校現場の判断に委ねたいと考える。手引きでは言及しない。
WBGT 計の各学校の設置状況について確認してから手引きに盛り込む項目を考えてほしい。新たに WBGT 計の購入が必要な学校があるならば、WBGT 計の活用に関する記載内容に配慮が必要である。	渡辺委員	WBGT 計の各学校の設置状況が確認できるのであれば確認する。新たに WBGT 計の購入が必要な学校があることも考慮して WBGT 計の活用について記載した。WBGT がいない場合には、温度と湿度でとか、それを持っていない場合の対応についても手引き 3.3.2 に記載した。
構成案では運動活動が体育、スポーツ活動とひとくくりになっているが、体育の授業、部活動、学校行事等で状況が異なるので状況を分けて措置の記載をしてほしい。	川原委員 本庄委員	体育、部活動及び各種行事に分けて予防措置を手引き 5 章に記載した。
情報入手方法や対応方法が選択できるように複数案を紹介する、ガイドラインにどのような強制力を持たせるか等、学校現場の特殊性に配慮した表現や項目を設定してほしい。	戸田委員	検討会を通じて表現や項目について意見を頂きたい。

委員会後に頂いたコメント

御意見	委員	対応方針(案)
測定時間、測定場所などにより値が異なるため、現場では判断に窮することが多いと聞いている。測定基準(時間、場所)を示すなど、現場が対応しやすい配慮が必要	渡邊委員	活動の場所、時間帯は様々であり、測定基準を一律に示すことは難しい。手引き5章には、活動場所において、活動前、活動中に測定するという原則を記載した。
運動時(活動時間にもよると思うが)に何をどのくらい飲めばいいか。おおまかな数字が示されると指導しやすい。効果的な飲料の方法があれば教えてほしい。	本庄委員	科学的な裏付けのある文献があれば参考文献として示したい。
年齢別体内の水分量など、体のメカニズムなども入れてほしい。体液濃度等なぜ水だけを飲んでいてはだめなのか。	本庄委員	科学的な裏付けのある文献があれば参考文献として示したい。
小学生などは、地面からの距離が短いので地面からの熱反射に留意する等あれば教えてほしい。	本庄委員	科学的な裏付けのある文献があれば参考文献として示したい。
熱中症の応急処置「自分で水分摂取できるか?」は、意識障害の見極めに「スポーツドリンク等のキャップを自分で開けられるかどうか」を入れていただきたいと思います。	本庄委員	手引きで引用した熱中症対応フロー(出典:独立行政法人日本スポーツ振興センター)に記載がある。
「新しい生活様式」のガイドラインに基づく記載が必要ではないか。	本庄委員	環境省資料(令和2年度の熱中症予防行動)をコラムとして手引き5.4に記載した。
「心のケア」関し、文部科学省発刊の「学校における子供の心のケア 平成26年3月」及び「生きる力をはぐくむ学校での安全教育 平成31年3月」が参考になる。	本庄委員	参考文献に追加した。